

幸福実現 THE HAPPINESS REALIZATION NEWS NEWS

清潔で、
勇断できる政治を。  **幸福実現党**

公式HP hr-party.jp 平成30年 8月21日

及川幸久外務局長が国連でスピーチ 中国に自由・民主・信仰を

8月6日からスイス・ジュネーブで開催された第96回人種差別撤廃委員会 (CERD) で、幸福実現党の関連団体であるNGO「幸福実現研究所 (HRRI)」が、中国における少数民族の弾圧などについて意見書を提出しています。及川幸久党外務局長がHRRIとして委員会に参加し、中国での人権弾圧を強く非難するスピーチを行いました。

及川幸久外務局長は8月7日、人種差別撤廃委員会のメンバーと各国のNGOとのセッションに参加し、中国政府が新疆ウイグル自治区に住むウイグル人を不当に弾圧しているとして、その実態に言及しました。

及川氏は、数十万から数百万人のウイグル人が、「再教育キャンプ」と呼ばれる施設に連行され、拷問を受けていると報告。「二連の弾圧の目的は、ウイグル人のイスラム教の信仰を捨てさせるためである」と指摘し、中国において「自由・民主・信仰」といった価値観が大切にされなければ、イスラム教徒への弾圧に歯止めがかからない、と訴えました。

中国への批判は世界の潮流



国連人権高等弁務官事務所 (OHCHR) を訪れた及川幸久外務局長。

ウイグル問題に関し、他のNGOも、その弾圧の実態を詳しく報告しています。10日と13日に行われた本会議では、委員から中国政府に対して厳しい質問が相次ぎ、委員の中からは「中国で100万人のウイグル人が『秘密の大規模拘束キャンプ』に閉じ込められていると指摘する多くの信用できる報告を受け取っている」との発言がありました。

及川氏は「中国は悪法を制定して、ウイグルでの弾



CERD 本会議の様子。NGO から寄せられた発言をもとに、委員が政府に質問する。(写真/RFA)

Copyright © 1998-2016, RFA. Used with the permission of Radio Free Asia, 2025 M St. NW, Suite 300, Washington DC 20036. <https://www.rfa.org>

人種差別撤廃委員会 (CERD) とは……

国連人権高等弁務官事務所 (OHCHR) が主催する委員会の一つ。

国連の条約の一つである「あらゆる形態の人種差別的差別の撤廃に関する国際条約」に基づいて設置されています。

この条約を批准する各国が条約を守っているかを監視し、委員は各国に対しての勧告を行います。

各国の人種差別の現実の状況について、NGOは「意見書の提出」や「委員との会合への参加」を通じ、情報提供を行うことができます。

圧を正当化しています。しかしアメリカも今年に入り、ウイグルでの再教育キャンプなどの問題に初めて言及するなど、世界的な非難が高まっています。人種差別を防ぐにあたっては、宗教的自由が不可欠であることとをもっと浸透させる必要がある」と話しています。

HRRIは、16日から開催された日本セッションに向けても意見書を提出しています。慰安婦問題をきっかけに、アメリカ在住の子供がいじめを受けていること、アメリカでは「日本は戦時中、数々の悪事を犯した」など、歪んだ歴史教育が行われていることなどを報告しました。

外交部会が要望を提出

幸福実現党外交部会が8月7日、外務大臣宛に「中国の『二帯一路』構想における日本政府の協力見直しを求める要望書」を提出しました。外交部会は、「日本政府の協力は中国の覇権拡大に手を貸すのと同じ」と、強く見直しを求めています。同文書は、7月17日にも内閣府に提出しています(下写真)。



7月17日、内閣府に要望書を提出する党外交部会の服部聖巳氏。



広島市内で講演を行う積党首。

「平和祈念の集い」 講演会を開催

積党首は8月5日に広島入りし、広島市内で講演を行いました。

豪雨災害のあった広島では、土砂災害を防ぐ土木工事の遅れと共に、避難のタイミングが遅かったことが指摘されました。積党首は、「やはり、自分の命は自分で守るという意識を高め

る必要があります。災害時に『避難する』というのは極めて理性的な判断が必要になります。防災インフラの整備をしっかりと進めつつ、現実に皆様の命を守るためには『率先避難者をつくる』というような取り組みも必要」と語りました。

8月6日には、幸福実現党広島県本部とともに広島平和祈念式典に出席。幸福実現党で花輪を供え、原爆被害者の冥福と平和の実現を祈りました(写真右)。



原爆死没者慰霊碑の前で献花を行う積党首。

平成30年7月豪雨

被災地に支援募金をお届けしています



広島県に支援募金の目録を贈呈した積量子党首(左から3番目)、國領豊太氏(最左)、諫山征和氏(左から2番目)。

「平成30年豪雨」の被災者の支援のため、幸福実現党では支援募金を募っています。8月6日には、広島県に200万円の募金の目録を贈呈。積量子党首と國領豊太(こくりょうとよた)広島県本部代表、諫山征和(いさやませいわ)支部後援会連合会長が県庁を訪れました。

8月17日には、森田浩二愛媛県統括支部長と白石則広県本部代表が愛媛県の大洲市・宇和島市・西予市に支援募金を贈呈。森田氏は3市から、ボランティアの協力などによる復旧作業の進捗や仮設住宅の建設状況などの状況を聞き取りました。

「全国のみなさまの暖かい支援募金をいただき、被災地各市に提供できましたことを深く感謝いたします」(森田氏)



大洲市での支援募金の目録を贈呈した森田浩二氏(写真左)、白石則広氏(同中央)。

～幸福実現党の地方活動のご紹介～

茨城県・北茨城市 柴田議員 学校にエアコン設置を



女性市議とともに、市長に要望書を提出した柴田きくえ議員(写真左から2番目)

茨城県の北茨城市議会の柴田きくえ議員は、同僚の女性市議とともに、市内の小中学校へのエアコン設置の要望書を市長に提出しました。

柴田議員は「市内には、まだエアコンが設置されていない学校が複数あります。市長からは、『この猛暑は災害。早急に取り組むべき』との言葉をいただきました。来年の夏に間に合うよう、9月議会で補正予算を組む方向で調整して頂いています」と話しています。

幸福実現党では引き続き、平成30年7月豪雨災害被災者支援募金を受け付けています

三菱 UFJ 銀行 東京営業部(店番:321)
普通口座:0084367
口座名義:幸福実現党(コウフクジツゲントウ)
電話番号:03-6441-0754
受付期間:2018年10月31日まで

8月15日 終戦の日 式典を開催



長らく日本を脱め続けてきた「河野談話」「村山談話」を遡って無効とする「大川談話」を奉納する祝党首。

8月15日、73回目の終戦の日にあたり、積量子党首を先頭とした幸福実現党の役員・スタッフらが靖国神社に参拝。大東亜戦争で犠牲となられた英霊の方々に対し、哀悼の誠を捧げました。

靖国神社参拝の後、ユートピア活動推進館において、幸福実現党主催の「終戦の日式典―先人への感謝と供養、そして未来へ―」を開催しました。特別ゲストの上田忠氏は

「元特攻隊員が見た、戦後日本とあるべき姿」について講演。元水上特攻隊員として死と隣り合わせだった戦場での体験を語り、「先の戦争は、決して侵略戦争ではなかったし、日本は侵略国家ではなかった」と訴えました。また、「台湾や、マレーシアなど、アジアの多くの方々が日本に期待しています。日本が完全な独立を取り戻し、アジアや世界の平和を実現することで、命を懸けて日本を守ろうとした御霊の志に報いることができる。私は本当にそう思います」と、声を震わせて

式典の中では、「愛念供養祈願」を通じて300万の英霊への感謝と慰霊を行いました。式典の参加者は、献花を捧げ、英霊へ思いを手向けるとともに、正しい歴史認識を伝え、新しい日本の未来を拓く決意を新たにしました。

熱く語りました。

未来の青写真を描く

積量子党首は「先人たちは、欧米の植民地支配からアジアの平和と自由を守るために戦われた。幸福実現党は、正しい歴史認識をもって、誇りを取り戻したいと活動してきた」とあいさつ。「先人たちへの感謝を胸に、今こそ、新しい日本の青写真をつくらうという気が必要ではないでしょうか。世界人口百億人の時代の食糧エネルギー問題、国際関係についてもビジョンを打ち出していきたいと思います」と語りました。



上田忠氏。1928年生まれ、満州育ち。15歳の時に海軍志願。沖縄戦に魚雷艇の特攻隊員として出撃後、奇跡の生還を果たす。



山口岩男氏。世界的ウクレレ奏者。ギタリスト、ウクレレ奏者として活動。